

「高校生のための学びの基礎診断」への申請について

令和7年 3月 7日

①事業者名	公益財団法人 日本漢字能力検定協会					
②測定ツール名	文章読解・作成能力検定 準2級					
③主な対象者	高校2年生から3年生					
④対象教科	国語	数学	英語	⑤測定内容 の区分	基本タイプ	標準タイプ
	<input checked="" type="radio"/>					<input checked="" type="radio"/>
⑥申請する測定ツー ルの目的・概要	義務教育段階で身につけた語彙力を土台として、文章の読解力や作成力、ひいては論理的思考力やコミュニケーション力を高めることを目的としています。					
⑦申請する測定ツー ルの特長・活用例等	<p>「基礎力」「読解力」「作成力」に大別し、その能力を5つの大問により測定しています。特に一定数の文字量の文章を手書きで記述することを重視しており、準2級では100字程度の通信文、550字程度の論説文の作成を課しています。測定は1回で完結しますが、年間6日程すべてで同レベルかつ異なる問題（新しい問題）を出題しているため、複数回受検して学習の伸長度を確認することも可能です。受検者には標準解答に加え、受検結果資料として、通信文や論説文の作成において、採点ポイントごとに何ができるて何ができなかつたのかをフィードバックしています。また、受検後の振り返り学習のためのプリントも提供しております。指導者向けには論説文の採点項目に沿って、どのような誤答が多くあり、どのように指導すればよりよくなるのかをまとめた資料を団体専用のWEBページより受検後ダウンロードできるようにして、学びのPDCAを補完する資料を提供しております。また、大学や企業での活用例も増えており、学習した内容や受検結果は、生徒の将来に役立ちます。</p>					
⑧実施期間、年間実 施回数	年間6日程（7月に1日程、8月～11月に2日程、1月～2月に3日程）のうち、学校側が都合のよい日程を選択して受検できます。すべての日程で異なる問題を作成しているため、クラスによって異なる日程（時期）を選択することも可能です。					
⑨実施方式 (CBT/PBT)	P B T					
⑩試験時間(分)	国語	数学	英語	60分		
	60分					
⑪受検料	3,000円/回					
⑫標準返却期間	約40日後					
⑬URL(事業者のH Pにおける測定ツー ル紹介)	https://www.kanken.or.jp/bunshouken/					

* 「⑤測定内容の区分」については、「基本タイプ」（義務教育段階の学習内容の定着度合いを測定することを重視したタイプ）又は「標準タイプ」（高等学校段階の共通必履修科目の学習内容の定着度合いを測定することを重視したタイプ）のいずれか一つを選択すること。

認定要件への適合性の申告内容について

事業者名:公益財団法人 日本漢字能力検定協会

測定ツール名:文章読解・作成能力検定 準2級

対象教科:国語

測定内容の区分:標準タイプ

I. 出題にすること

(1)出題の基本方針

国語の基礎学力の定着度合を確認することを目的として、国語における〔知識及び技能〕(1)言葉の特徴や使い方に関する事項(2)情報の扱い方に関する事項、〔思考力、判断力、表現力等〕B「書くこと」C「読むこと」に関する能力を測定します。

出題範囲は中学校「国語」の学習内容理解を前提とした、「現代の国語」の学習内容とします。診断は1回の受検で完結するものですが、複数回受検したり、上位の級にステップアップしたりすることで、より明確に伸長度が確認できます。

出題形式は、選択式と短答式・記述式であり、知識及び技能などの基礎問題に加えて、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・表現力等を問う問題を出題します。

特に一定数の文字量を要求する記述問題を必ず2問以上出題します(100字程度の通信文記述問題、550字程度の論説文記述問題)。

(2)構成等

①出題形式

選択式15問程度(四択)

短答式3問

記述式2問(100字程度1問、550字程度1問)

②出題範囲

〈各回共通〉「現代の国語」の学習内容8割程度、中学校「国語」の学習内容2割程度

(3)難易度設定の考え方・方法

出題語彙について、漢検準2級(高校在学程度)を基準としており、読解問題及び記述問題については、約16,000人を対象としたモニターテストの実施及び過去11年間の検定実施実績により難易度を設定しています。

(4)基礎学力の定着や学習意欲の喚起を図るための工夫

読解問題では、日常的な題材から社会的な内容にまで範囲を広げ、問題を解くことで、受検者が、国語の能力を高めるとともに視野を広げ新たな情報を得ることもできるように配慮しています。グラフや図表読解では、単に図表を理解する力だけでなく、レポートや報告書の中で示された図表と文章を関連させながら読み解く力を育むよう工夫しています。

論説文の作成では、受検者が日常的に触れることが多いテーマを選び、興味関心をもって取り組むことができるよう工夫しています。論説文の作成を条件通りに行うことで、ブレーン・ストーミングを活用した材料集め、事実を根拠とした説得力のある文章構成、論理的な思考を言葉で表現することが総合的に学べます。さらに、通信文では、1文には1つの内容だけを書くこと、誤字や敬語の修正など、推敲の技術が身につくように工夫し、日常的には触れないものの、進学後や就職後の実社会に出て必要となる場面を想定した問題を出題しています。

(5)その他特長

II. 結果提供のこと

(1) 受検者個人への結果提供内容・方法

<結果提供項目>いずれも紙媒体での提供

- ①問題 ②標準解答 ③総合得点 ④合否判定 ⑤結果総評 ⑥選択式問題の結果詳細（正誤）
⑦分野別得点 ⑧合格者平均点 ⑨記述問題の結果詳細 ⑩今後の勉強方法（学習アドバイス）
⑪本人と同じ年齢層の分野別得点率 ⑫振り返り学習教材（論説文）

<個別の内容>

- ①問題：受検終了後に一旦回収し、翌日以降に配付します。
- ②標準解答：受検5日後を目安にwebサイト上で公開します。これにより、受検後早期に確認することができます。
- ③総合得点：200点満点で示します。
- ④合否判定：当該級のレベルに到達しているか否かがわかります。
- ⑤結果総評：得意な分野と苦手な分野がわかるように記述文で示します。
- ⑥選択式問題の結果詳細：選択式問題のそれぞれについて、正誤及び無答、失格（指定外の個数をマーク）を記号で示します。復習する際に役立ちます。
- ⑦分野別得点：設問分野別の得点を示します。
- ⑧合格者平均点：設問分野毎の合格者平均点を示します。これにより、自己と合格者との差を確認することができます。
- ⑨記述問題の結果詳細：記述問題について、採点ポイントごとに何ができるか何ができないかを示します。
- ⑩今後の勉強方法（学習のアドバイス）：何が課題であり、どのような観点で学習していくことが望ましいのかを示します。
- ⑪本人と同じ年齢層の分野別得点率：受検者には、本人と同じ年齢層の分野別得点率を示します。自己の能力がどのあたりのレベルにあるのかがわかります。
- ⑫振り返り学習教材（論説文）：論説文の採点項目の中でも誤答傾向が高い「異なる意見に対する反論」について、誤答例を示し、それを訂正しながら正答を導き出す振り返り学習プリントです。

(2) 学校等への結果提供内容・方法

<結果提供項目>紙媒体での提供※帳票サンプルを添付。

- ①申込者数・欠席者数・受検者数・合格者数・合格率（級別表示）②受検者全員の得点・合否一覧
③設問分野ごとの平均点の比較 ④結果コメント（得意分野と苦手分野の指摘）
⑤枝間・小問ごとの正答率分析比較（選択式問題限定）

注）①と②については団体専用webサイトから加工可能な電子データとしてダウンロードが可能

<個別の内容>

- ③学年クラス別に設問分野ごとの平均点を表示するため、全国平均や合格者平均との差異を把握できます。
- ④総括的に学校ごとの得意分野と苦手分野を示します。
- ⑤選択式問題において、具体的にそれぞれの問題の正答率が確認でき、次の指導に活用できます。

(3) 試験等の結果（正答状況やスコア等）に対する評価の考え方と分析の手法

検定結果は合計200点満点のスコアで表示するとともに、測定する能力分野ごとに同年齢層との差異を示します。

また、結果総評として得意な分野と苦手な分野がわかるように記述文で示すとともに、記述問題に関しては、問題ごとに採点ポイントを設け、それぞれの条件を満たしたか否かを結果詳細に表示し

ます。通信文では、書くべき内容は問題ごとに変わりますが、問題で問うポイント（敬語や文のつなぎ方）は共通です。また、論説文は毎回共通の視点（文章構成、事実の具体性、意見の明確さ、理由や反論の説得力の有無、表現表記の瑕疵の有無）による結果詳細を表示します。そのため、過去の成績（検定結果）と比較することが容易です。さらに、各自の苦手分野に関しては、「今後の勉強方法」でアドバイスを示し、苦手分野の克服の助けになるものと考えています。

III. 運営に関するこ

(1) 問題の質を確保するための方法

専門的な知識を有する研究者、教員等で構成した問題作成委員による問題原案を、問題作成検討会（4回以上開催）で精査し、完成させています。また、検定実施後に、受検結果データを分析し、設問文にあいまいさはなかったか、問題の難易度に大きな差異はなかったかなどについて検討しています。その結果を問題の向上に活用しています。また、定期的に項目分析を行い、品質向上に努めています。

(2) 学校における実施方法

学校での実施にあたっては、事前に「準会場の手引き」（準会場規定含む）等の対応マニュアルを配布します。事前に不明点を確認したい場合や当日のトラブルに備え、通話料無料のお問い合わせ窓口を設置しています。

学校単位、クラス単位、また希望者のみなど、様々な単位で受検できます（10名以上）。またクラス内の生徒間の学力差に応じて、同一教室内で、別の級を同時に実施することが可能です。

学校には、申し込みや入金などの事務と本検定の実施当日の運営を行っていただきます。具体的には問題冊子・解答用紙の配布、実施時の監督、解答用紙の回収と当協会への返送を行っていただきます。

(3) 採点の方法と体制

採点方法：1つの答案に対して複数回採点員を変えて採点することで、採点員による差がないように配慮しています。また、採点時は当該問題の解答欄のみを表示する仕組みをとっており、答案用紙の学校名・氏名等の情報を採点員が知ることができない体制により、公正性を担保しています。

採点体制：当協会が協力企業と協働することで品質を担保しながら多数の記述式答案の採点を行っています。役割分担としては、当協会が検定回ごとに採点ガイドラインを作成し基準を明確にするとともに、採点開始前に採点監督者に対して採点基準説明会を実施、また採点後（採点結果確定前）に抜き取りチェックを行い適切な採点が行えているかどうかを確認しています。協力企業は、採点監督者と採点員の確保を行い、さらに、協会が提供する採点員ごとの最終採点結果との差異の評価を行い、採点員本人に伝えることで採点品質向上に努めています。

(4) 情報管理体制

当協会は、情報セキュリティ基本方針並びに個人情報保護方針を策定し、運営しています。また、一般財団法人日本情報経済社会推進協会（JIPDEC）の審査を受け、2004年よりプライバシーマーク付与事業者として登録され、更新審査も10回経ています。

IV. 情報開示に関すること

(1)障害のある受検者等への配慮

弱視等の視覚障害のある受検者の場合、問題冊子・答案用紙を拡大して受検することが可能です。

(2)事前／事後学習教材の有無、内容

事前／事後学習教材として複数種の問題集を用意していますが、別料金のため任意での使用となります。

なお、受検者に対しては事後学習用の無料教材を検定結果と共に配付しています。

(3)学習状況等のアンケートの有無、内容

受検団体ごとに実施後の任意アンケートを依頼しております。受検目的や各団体の課題、当協会へのご要望などを収集しております。

(4)個人受検の可否

一部地域（2024年時点では東京・名古屋・大阪）において、個人受検用の会場を設けています。

(5)問題内容の情報提供

既出問題については、過去問題集の販売及びホームページ掲載という形で一般に公開しています。標準解答についてもホームページに掲載しています。また、受検者・受検校には、受検した問題・標準解答を提供します

(6)その他

学校の許諾なく、教育委員会等へ情報提供することはありません。

(様式3)

認定要件への適合性を示す書類等一覧について

事業者名：公益財団法人 日本漢字能力検定協会

測定ツール名：文章読解・作成能力検定 準2級

対象教科：国語

測定内容の区分：標準タイプ

I. 出題に關すること

<提出任意の書類等>

書類等の内容	書類等の名称	資料番号	対応する認定基準				
			I. (1)	I. (2)	I. (3)	I. (4)	I. (5)

II. 結果提供に關すること

<提出任意の書類等>

書類等の内容	書類等の名称	資料番号	対応する認定基準	
			II. (1)	II. (2)
帳票(生徒向け)	検定結果通知	3-1		○
帳票(学校向け)	会場別成績資料	3-2	○	

III. 運営に關すること

<提出必須の書類等>

書類等の内容	書類等の名称	資料番号
実施要項(試験時間、実施方式、実施期間、受検料、標準返却期間等)	文章検ガイド	3-3
学校用実施マニュアル	準会場の手引き	3-4

<提出任意の書類等>

書類等の内容	書類等の名称	資料番号
情報管理体制に関する書類	プライバシーマーク登録証	3-5

IV. 情報開示に關すること

<提出任意の書類等>

書類等の内容	書類等の名称	資料番号

文章検

後援：文部科学省

文章検 ガイド

思考力・表現力向上に役立つ
文章力を測り、育てる検定のご案内



文部科学省「高校生のための学びの基礎診断」認定ツール

漢検

公益財団法人 日本漢字能力検定協会

S0022.24.2

思考力・表現力向上に役立つ

「文章力」

学習指導要領の改訂や大学入学者選抜改革の実施に伴い、現在の大学入試では、長文や複数の資料を読んで理解したうえで、論理的に思考し文章で表現する力が問われます。希望する進路を実現するためには、文章力すなわち

「**読解力**（＝情報を正確に読み取る力）」と「**作成力**（＝自分の考えを論理的に伝える力）」を早い段階から身につけておくことが必要です。

文章読解力や文章作成力向上のために、ぜひ「文章検」をご活用ください。

*「文章検」の出題に際しての漢字使用は漢検の級と合わせています。**文章検準2級は、漢検準2級（高校在学程度）合格者や同程度の語彙力をお持ちの生徒の皆様におすすめ**の検定です。

文章力が必要な場面

中学生



»»高校入試対策
(課題作文・長文読解)

高校生



»»大学入試対策
(小論文・長文読解・志望理由書)
»»履歴書・エントリーシートの作成

大学生・専門学校生



»»履歴書・エントリーシートの作成
»»国家試験・面接対策
»»公務員試験対策
(小論文・文章理解)

社会人



»»報告書・決裁書・提案書・
プレゼンテーション資料の作成

文章検は、文部科学省「高校生のための学びの基礎診断」認定ツールです。

対象教科:国語

高校生のための学びの基礎診断

基本タイプ

義務教育段階の学習内容に関する定着度合いを
測定することを重視したタイプ

文章検4級

※検定級の目安はP3をご覧ください。

高校生のための学びの基礎診断

標準タイプ

高等学校段階の共通必履修科目に関する
学習内容の定着度合いを測定することを重視したタイプ

文章検3級・準2級

全国の大学・短期大学480校（調査対象校の約45%）、専修学校362校が文章検を評価。
進学時の調査書や面接で、文章検合格をアピールすることができます。

お茶の水女子大学、東京農工大学、東洋大学、日本大学、
明治大学、金沢大学、信州大学、関西大学、
近畿大学、甲南大学、広島大学など

※2022年2月公開・当協会調べ。最新の調査結果は、2024年2月頃に公開。

活用校の詳細を公開中！

文章検 進学



文章検活用団体の声

賢明学院中学高等学校(大阪府)

進路実現とその先の社会生活を支える論理的文章力の育成

本校の国語科では、大学進学はもちろんのこと、社会に出てからも必要となるコミュニケーションを支える、言葉の力の育成を大切にしています。そのために、中学校では語彙力、高校では表現力の育成に注力しており、高校での表現力を育成するツールとして文章検を活用しています。文章検は、文章を読み取る、データを理解する、自分の意見を構築する、読み手視点で語彙や表現を選び取る等の様々な力を身につけさせることができます。また、学習教材である『基礎から学べる! 文章力ステップ』は、学習プロセスが段階的に細かく分かれているため、生徒の文章力を少しづつ着実に育成することができます。本校の関西学院大学特進サイエンスコースでは高校1年生で準2級を、特進エグゼコース・特進コースでは高校2年生で準2級を、国語の授業内で指導し検定を実施しています。

文章検の活用を通じて、自己推薦文の作成や面談準備など、自分の考えや経験を伝える力の向上が見られました。また、指導の際も、「文章検で学んだところだよ」と伝えると、すぐに理解・納得し改善することができるなど、効果的な指導に繋がっていると感じています。

秀明八千代中学校・高等学校(千葉県)

国語の授業で身につけた資質・能力を評価する外部指標に

本校は「言葉で表現する力」の育成を重視しており、高2・高3において「国語表現」を週2時間設定しています。その授業で身につけた資質・能力を測る外部試験として、文章検を全員受検(中1～高2)という形で導入しました。

文章検は、出題内容が国語における「読むこと」「書くこと」の指導との親和性が高く、授業で取り組んだことのある程度網羅的に測定できるのが特長です。さらに、授業で学んだ力を、初見の問題で実践する力の測定機会としても活用しています。また、生徒にとって「書くこと」は抵抗感が強く、モチベーションがあがりにくい学習ですが、授業で学習していることが文章検の問題にも出題されていることを見せてることで、学習意欲の向上にもつながっています。

令和4年度から始まる新しい教育課程においては、高1の「現代の国語」、高2・高3の「論理国語」「国語表現」の授業で身につけた資質・能力を測定する外部試験として、今後も文章検を活用できると考えています。

福岡県立福岡工業高等学校(福岡県)

大学入試を意識した効率的な小論文指導のために

本校の工業進学コースは、国公立大学工学部への進学や高専編入などを進路目標の中心に据え、日本の工業界を牽引する人材を育成しています。理系の学校である本校では、進学コースといえども文章を書くことへの苦手意識が強い生徒も多いのですが、従来の小論文対策は3年次の放課後補習のみでした。そこで、早い段階から指導を始めたいと考え、工業進学コースの1・2年次に全員受検という形で「文章検」を導入しました。

1年次は、表現学習の時間に原稿用紙の使い方から指導し、2学期に入ると『文章検 公式テキスト』と『文章検過去問題集』を併用して学習を進め、11月中旬に文章検を受検します。2年次は、夏休みの課題にしたり朝課外(週1)の時間を使ったりして指導しています。この指導体制に移行後、3年次に本格的に入試対策を始めるときに小論文の書き方から説明する必要はなくなり、すぐに推敲の指導に入ることができます。効率的な小論文指導ができるようになったことを実感しています。

文章検コンテンツは企業でも活用されています

株式会社ニュー・オオタニ、オリックス生命保険株式会社、日本瓦斯株式会社、ワコール流通株式会社、東和薬品株式会社、コープデリ生活協同組合連合会、富士通コミュニケーションサービス株式会社、日本新薬株式会社、株式会社オリエント総合研究所、損害保険ジャパン株式会社、シオノギビジネスパートナー株式会社、大日本印刷株式会社 人財開発部、中津市役所(大分県)、株式会社メディアハウスホールディングス、阪急阪神不動産株式会社、ダイハツディーゼル株式会社 など

国語科



上松 貢 先生

校長



富谷 利光 先生

国語科



片山 一真 先生

累積導入社数
1,200件突破!

※掲載内容(所属団体・役職名等)は取材時のものです。

文章検で育て、測る力

文章検で育てる力

文章力は複数の能力が関連した総合的な技能です。

論理的文章の作成には完成までのプロセスがあり、プロセスごとに必要な能力が異なります。必要な能力を個別に鍛えることで、効率的・効果的に文章力を向上させることができます。

文章作成のプロセス



文章検で測る力



検定級の目安

詳細は文章検ホームページでご確認ください。



級	文章力向上の目的例	中学生	高校生	大学生・専門学校生	社会人	検定時間	検定料
2級	課題解決型学習、企画書・提案書の作成					90分	4,000円
準2級	問題解決型学習、小論文対策					60分	3,000円
3級	複数の情報の読み取り、志望理由書・実習レポートの作成					60分	3,000円
4級	図表の読み取り、高校入試の課題作文					60分	2,000円

合格基準は「200点満点・70%程度の得点」です。

*出題に際しての漢字使用は、漢検の級と合わせています。

学習の流れ

Step1 目標級の設定

学習教材



基礎から学べる! 文章力ステップ

基礎から実践レベルまで段階的にステップアップする構成で、無理なく文章力を身につけられる問題集。

2級／準2級／3級／4級
各 定価 770円(10%税込)



文章検 公式テキスト

詳しい解説と問題演習で確かな文章力を養い、文章検合格に導くテキスト。

2級／準2級／3級／4級
各 定価 495円(10%税込)



文章検 過去問題集Vol.2

2年分の検定問題を収録した過去問題集。(Vol.1も発売中)

2級／準2級／3級／4級
各 定価 1,210円(10%税込)



7日でチャレンジ 文章作成ワーク

まんがとグループワークで「言いたいことを正確に伝える文章」が書けるようになる新しい教材。

20冊ご購入ごとに指導書を進呈
定価 770円(10%税込)

教材はWebでも購入できます! > 団体専用 書籍注文サイト <https://book.kanken.or.jp/>

Step3 受検・振り返り

検定結果通知

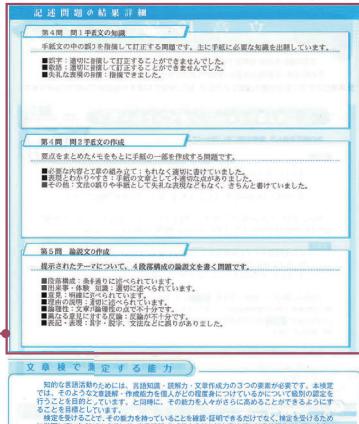
200点満点。

70%程度で合格。

各設問の得点率が
ひと目で分かる。

記述問題は
解答内容に応じて
結果を表示。

文章検 文章読解・作成能力検定 検定結果通知



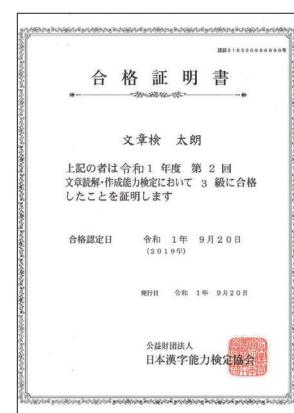
Step4 進路の実現

能力証明書類(合格者のみ)



合格証書

あなたの文章力を証明します。



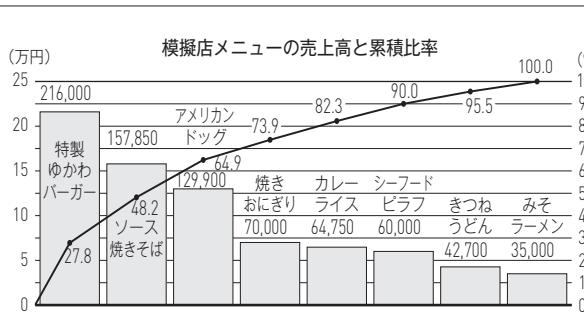
合格証明書

必要に応じて進学・就職を
希望する学校・企業へ
ご提出ください。

文章検の問題例(準2級)

第2問 資料分析

【設問のポイント】
「図表と文章から情報を取り、段落や文章の要旨を正しく理解する力」を測ります。
さまざまなグラフ・図・表を出題します。



湯川学園大学クライミング同好会では、今年の大学祭の模擬店メニューの選定にあたり、総額約七八万円を売り上げた昨年の模擬店に関するデータを分析した。
昨年のメニューは「特製ゆかわバーガー」など左の図中に示した八品目である。棒グラフ(左目盛り)では、各品目を売上高順に並べている。売上高最多は二〇万円以上を売り上げた「特製ゆかわバーガー」であった。全体的な傾向としては、①ことが挙げられる。
本年に主力商品として扱うべき品目は何かを考えるために「累積売上高」を利用して見ていく。累積比率七〇%以上八〇%未満の範囲(A区分)に達するまでに合算された各商品を「主力」とする。そして、累積比率が八〇%以上九〇%未満の範囲(B区分)に達した段階で新たに加わった商品を「準主力」、そして、九〇%以上(C区分)に加わる残りの商品を「戦力外」とする。
すると、「特製ゆかわバーガー」(ソース焼きそば)②が主力商品ということになる。
ただし、この分析はあくまでも売上高を対象としていることに注意したい。例えば、原材料の品質特に重視した「特製ゆかわバーガー」には採算面で課題があると考えられる。したがって、③についてのデータもそろえて詳細な分析を加える必要があるだろう。

- 問1 文中の空欄①に入る内容として最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選びなさい。
ア 加熱調理を要する品目の売上高が振るわなかった
イ カレーライスの売上高は第五位であった
ウ 売上高が五万円を超えた品目は全体の半分に満たない
エ 汁気のあるめん類やご飯類の売上高が比較的低い
- 問2 文中の空欄②、③に入る内容の組み合わせとして最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選びなさい。
ア ②「アメリカンドッグ」
イ ②「アメリカンドッグ」
ウ ②「アメリカンドッグ」「焼きおにぎり」
エ ③各品目の販売実数
エ ③各品目にかかるコスト
エ ③各品目にかかるコスト
- 問3 この文章が書かれた目的として最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選びなさい。
ア 昨年の模擬店の問題点を指摘する。
イ 本年の模擬店の実績を振り返る。
ウ 本年の模擬店の実施を広く告知する。

第2問 ある大学生が模擬店の売り上げについて分析した次の文章を読んで、後の問い合わせ(問1～問3)に答えなさい。

第3問 文章構成・要旨理解

【設問のポイント】
「図表と文章から情報を読み取り、段落や文章の要旨を正しく理解する力」を測ります。
さまざまなグラフ・図・表を出題します。

第3問 次の文章を読んで、後の問い合わせ(問1～問3)に答えなさい。
「判官びいき」とは、鎌倉幕府を開いた源頼朝の弟である源九郎判官義経すなわち源義経に由来する言葉である。源氏と平氏との戦いにおいて源氏方の勝利に貢献したものの、結局は頼朝に滅ぼされてしまった義経の悲劇に、多くの日本人が同情を寄せてきた。そこから、弱い立場にある人に同情を寄せて応援することを、判官びいきと呼ぶようになったのである。【段落A】

現代の日本では、スポーツの応援において判官びいきがよく見られる。もともと、判官びいきから出た応援を受けた選手へが、必ずしも自分よりはるかに大きな相手に立ち向かう小柄な力士に大きな声援が送られるのも、判官びいきの表れと言えるだろう。【段落B】

自分がええで弱いチームを応援する」という人は少なくない。大相撲で、よいパフォーマンスを見せるとは限らない。大声援がブレッシャーとなつて力を発揮できず、「ひいきの引き倒し」となってしまうこともある。ただ、このケースに関しては、自分への声援を力に変えられなかつた本人が未熟なのだ、と考えることもできる。【段落C】

それより気なりのは、判官びいきが不当に追いつて力を発揮できず、「ひいきの引き倒し」となつてしまつこともある。【段落D】高校野球において、劣勢のチームが攻撃時に球場全体から手拍子が起るという現象がたびたび見られる。このような時、優勢だったチームは、周りがすべて敵になつたような心境に陥つてしまふようだ。【段落E】

「弱者」を励ますなどいうさやかな善意がいつしか大きなうねりとなつて「強者」をことさらに圧迫する。「弱きを助け強きをくじく」行為は、SNSが普及した今日、だれもが自分の意思を広く表明できる。悪意のない判官びいきが、思わぬ形で無形の暴力へと增幅されはしないか気がかりである。【段落E】

問1 文章中の空欄①・②に入る語句の組み合わせとして最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選びなさい。
ア ①ところが ②必ずしも ①いずれ ②道理で
ウ ①たとえば ②一概には ①現に ②果たして

問2 文章中の空欄①・②に入る語句の組み合わせとして最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選びなさい。
ア ①導入――B=話題の提示――C・D=二つの事例の紹介――
イ E=二つの事例の共通点
エ E=発展的な考察
ウ A・B=筆者による問題提起――C=筆者の仮説――D・E=仮説の論証
A・B=筆者による問題提起――C=筆者の見解――D=筆者の見解に対する反論――E=反論の否定

【設問のポイント】

文章全体の構成を理解し、筆者の意図を読み取ります。「段落ごとの役割や関係性をとらえ、文章を構造的に理解する力」「段落や文章の要旨を正しく理解する力」を測ります。

第5問 論説文

第5問

話題の人気観光スポットについて、「ぜひ行くべきである」という意見と「必ずしも行く必要はない」という意見があります。どちらかの立場に立つて、論説文を書きなさい。次の条件を守ること。

条件1 論説文は、次の順番で四つの段落に分けて書くこと。

第1段落 出来事・体験・知識を述べる。

「話題の人気観光スポットに行くこと」について、あなたの意見を支える出来事・体験・知識述べる。

第2段落 意見を述べる。

話題の人気観光スポットについて、「ぜひ行くべきである」か「必ずしも行く必要はない」のどちらか、意見を明確に述べる。

第3段落 意見の根拠を論理的に説明する。

「話題の人気観光スポットに行くべきである」か「必ずしも行く必要はない」のどちらか、意見を明確に述べる。

条件2 第4段落 第2段落の意見とは異なる意見（例えは、第2段落の意見の欠点を指摘する意見や、第2段落の意見と反対の意見の長所を主張する意見など）をとりあげ、その意見が正しくないことを説明する。

句読点が行頭にきたときは、前行末欄内または欄外にうつってよい。
注意 行数不足または行数超過の場合は採点の対象となりません。

【設問のポイント】

不特定多数の読み手に対して説得力のある文章を作成します。「論説文の基本的な構成（事実→意見→意見の根拠の説明→異なる意見に対する反論する）」を理解し、与えられたテーマと条件のもと、論理的な文章を作成する力を測ります。
*教材では、論説文の「事実」「材料」を集めための「フレームミーティング」を取り扱っています。

賛成の立場

作成例①

私の住む県には、山城の跡がある。朝霧にけむる姿が幻想的だと評判になり、県内外から多くの観光客が訪れている。私自身は大学に入学するまで関心がなかったが、昨年、実習で近くまで行った際に初めて立ち寄った。まことに美しい景色に目を奪われ、さらにボランティアガイドの説明を受けながら有意義なひと時を過ごした。山城は中世に有力な豪族がいた証拠であり、朝霧が発生しやすいのは周辺の気候と地形との相乗作用によるものだといふ説明は、大変興味深かった。そして、もっと早く行つておけば地理や歴史が得意になっていたかもしれない後悔をしている。

話題の人気観光スポットだからと言つてわざわざ行くことはない、という人もいるようだ。しかし、ぜひ行くべきである。

話題の人気観光スポットは、多くの人々を引き付けるだけに多くの魅力を秘めている。私たちの心を癒やしたり、知的好奇心を刺激したり、様々なメリットをもたらしてくれる可能性が高い。それにもかかわらず行かないのは、実にもつたいないことである。

わざわざ人気観光スポットに行つても日常生活に直結するメリットは無い、という意見もあるが、果たしてそうだろうか。人気観光スポットに関心を持つ人は多い。一度でも行つておけば、自分で実際に見たことや体験したこと生き生きと語ることで会話が盛り上がり、人間関係も円滑になるだろう。人気観光スポットに行つておくことは、日常生活にも役立つのである。

(25字
26行)

反対の立場

作成例②

修学旅行の自由行動の時、「人気のスポットだから是非行こう」と親友が強く誘うので、有名な観光タワーに行つたことがある。しかし、テレビ番組で何度も見たこのあるタワーの実物を見ても、特に感慨はなかった。友人は最上階から見下ろした街並みに歎声をあげていたが、私はまったく楽しめなかつた。まるでミニチュア模型のよう見えて、あまり美しいとは思えなかつたからである。

正直に言つて、あの日の経験は時間の無駄でしかなかつた。話題の人気観光スポットだからと言つて、必ずしも行く必要はない。

興味・関心を持ち、好ましく感じる対象は、人それぞれに違つてゐる。どれだけ多くの人が足を運ぶスポットであつても、すべての人の興味・関心や好みを満たしてくれるとは限らないのである。

人気観光スポットに行けば、多くの人と共通の話題が増えるから行くべきだ、という意見もある。だが、私たちの生活は観光だけで成り立つてゐるわけではない。読書なり、スポーツなり、観光以外の話題で興味・関心が共通する人をたくさんいるだろう。そうした人を見出そうという努力をせず、話題作りのために人気スポットに行くべきだというのではなく、安易な考え方である。

(25字
22行)

文章検の概要

団体受検

団体受検とは、学校や塾・企業などの団体で志願者を**10名以上**集めて、まとめて申し込みを行う方法です。

検定会場	準会場(設置条件を満たしている学校や団体が、自ら団体受検用の会場と責任者を設け実施する)
設置条件／申込資格	○学校教育法に定める学校(専修・各種学校を含む)、各省庁所轄の学校および官公庁 ○上記以外の団体(塾や企業など)は、協会に準会場設置申請をして承認を得る (ただし、漢検準会場として既に承認を得ている団体は申請不要) ○「準会場規程」を遵守することができる団体
申込条件	2級～4級の準会場での志願者が合計10名以上 / 「準会場規程」の遵守を誓約すること
申込方法	インターネット(団体専用ページ)から申し込む。
検定料控除制度	団体の経費負担を補助する制度。検定料から以下が控除できる。 ・事務連絡費(検定料総額の5%) ・準会場実施経費 注意:志願者から検定料を割り引いて集金することは不可
検定料払込方法	検定日の約2週間前に発送される専用の払込票で、検定日前日までに払い込む。
合否の通知	検定日から約40日後を目安に受検者全員分の検定結果資料が一括で担当者に届く。

申し込み・実施の流れ

詳細は「文章検ホームページ」をご確認ください。



個人受検

個人受検とは、志願者が直接協会に申し込み、公開会場で受検する方法です。

検定会場	公開会場(当協会または当協会と特別に提携した機関が一般の受検者のために設けた会場)
公開会場設置都市	東京都(23区内)／名古屋市／大阪市 ※全国3会場で実施予定
申込方法	インターネット

※上記内容を変更する際は、文章検ホームページにて公表します。

※標準解答、合格者の会場番号・受検番号は文章検ホームページに公開します。その他詳細については文章検ホームページをご確認ください。

2024年度 検定日程

	検定日	受付開始日	申込締切日(協会必着)	検定級
団体受検	2024年 7月17日(水)	2024年 3月 1日(金)	2024年 6月21日(金)	準2～4級
	2024年 8月22日(木)	2024年 7月 1日(月)	2024年 7月26日(金)	準2～4級
	2024年11月 1日(金)		2024年10月 7日(月)	準2～4級
	2024年11月15日(金)	2024年11月 1日(金)	2024年10月21日(月)	準2～4級
	2025年 1月24日(金)		2024年12月23日(月)	準2～4級
	2025年 2月 5日(水)		2025年 1月 9日(木)	準2～4級
	2025年 2月16日(日) ★ 漢		2025年 1月20日(月)	2～4級
個人受検	2025年 2月16日(日)	2024年12月10日(火)	2025年 1月11日(土)	2～4級

・日曜日(★の日程)に準会場受検を実施する場合は、公開会場の検定時間に準じて実施してください。

・漢印は、漢検と同じ日に実施できる日程です。

団体受検(準会場)の検定時間について

平日と土曜日の検定 開始時刻は問いません。

日曜日の検定

公開会場と同一の問題を使用するため、下記の検定時間に準じて実施してください。ただし、許容範囲内(2級は公開会場の検定開始時刻より前後90分間、準2～4級は前後60分間)において、開始時刻を調節することは可能です。

公開会場 (日曜日の) 検定時間	2級	10:00～11:30
	準2、3、4級	10:00～11:00

↔ 公開会場実施時間
(図) 検定開始許容時間 ━━━━ 開始時刻の許容範囲

検定級	検定時間	8:00	9:00	10:00	11:00
2級	90分間		10:00	↔	11:30
		8:30		11:00	
準2、3、4級	60分間		10:00	↔	
		9:00	11:00		

例:2級は8:30～11:30の間に開始すること

漢検

公益財団法人 日本漢字能力検定協会



0120-509-315(無料)

文章読解・作成能力検定 メールフォーム:[文章検ホームページ > お問い合わせ] <https://www.kanken.or.jp/bunshouken/contact/>

「漢検」、「文章読解・作成能力検定」、各検定ロゴは登録商標です。

お問い合わせ時間

月～金 9:00～17:00(祝日・お盆・年末年始を除く)

※検定日とその前日の土、日は開設

※検定日は9:00～18:00



測定しようとする資質・能力の具体的な内容について

事業者名：公益財団法人 日本漢字能力検定協会

測定ツール名：文章読解・作成能力検定 準2級

対象教科：国語

測定内容の区分：標準タイプ

測定しようとする資質・能力の具体的な内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・漢検準2級（常用漢字のうち1951字）程度の語句・慣用表現の意味が理解でき、文脈や意味に応じた語句・慣用表現を選別できること。	【設問数】 5問（程度） 【出題形式】 選択式	字知識 ○及び語彙技能 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 ○漢	<p>現代の国語</p> <p>〔知識及び技能〕 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項</p> <p>○語彙</p> <p>エ 実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。</p> <p>中学校第3学年</p> <p>〔知識及び技能〕 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項</p> <p>○漢字</p> <p>ア 第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むこと。また、学年別漢字配当表に記されている漢字について、文や文章の中で使い慣れること。</p>

(様式4)

測定しようとする資質・能力の具体的な内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・表現において、文法的な違いが果たす意味・役割を理解できること。	【設問数】 3問 (程度) 【出題形式】 選択式 サンプル問題	<input type="radio"/> 知識及び技能 <input type="radio"/> 語彙 <input type="radio"/> 表現の技法 <input type="radio"/> (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 <input type="radio"/> 文や文章	<p>現代の国語</p> <p>〔知識及び技能〕 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項</p> <p>○語彙</p> <p>エ 実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。</p> <p>中学校第2学年</p> <p>〔知識及び技能〕 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項</p> <p>○表現の技法 文や文章</p> <p>オ 単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成や展開について理解を深めること</p>
・資料から読み取れる事実をもとに、段落や文章の要旨及び筆者の意図を理解できること。	【設問数】 3問程度 【出題形式】 選択式	<input type="radio"/> 思考力等 <input type="radio"/> 構造と内容の把握 <input type="radio"/> 精査・解釈、考えの形成、共有 <input type="radio"/> C読むこと	<p>現代の国語</p> <p>〔思考力、判断力、表現力等〕 C読むこと</p> <p>○構造と内容の把握</p> <p>ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述をもとに的確に捉え、要旨や要点を把握すること。</p> <p>○精査・解釈、考えの形成、共有</p> <p>イ 目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係づけながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めること。</p>

測定しようとする資質・能力の具体的な内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・段落や文章の要旨を理解できること、及び筆者の意図を理解できること。	【設問数】 3問 (程度) 【出題形式】 選択式	精査容 ・力、 解把 釈握判 断(形○力、 式精) 査表 ・現 解力 釈等 考 C 読 の 形 成と 共○ 有構 造○ と	<p>現代の国語 〔思考力、判断力、表現力等〕 C読むこと</p> <p>○構造と内容の把握 ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述をもとに的確に捉え、要旨や要点を把握すること。</p> <p>○精査・解釈、考えの形成、共有 イ 目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係づけながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めること。</p> <p>中学校第3学年 〔思考力、判断力、表現力等〕 C読むこと</p> <p>○精査・解釈 (形式) ウ 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価すること。</p>
・文法的・意味的に正しい文を書けること。 ・敬語を正しく使えること。 ・表記や文体に配慮できること。	【設問数】 3問 (程度) 【出題形式】 短答式	知 言葉や 話し使 い及び 言葉方 言葉と 能(1) 書き言 葉する 事項 言葉○ 特徴	<p>現代の国語 〔知識及び技能〕 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項</p> <p>○話し言葉と書き言葉、言葉遣い イ 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うこと。</p>

(様式4)

測定しようとする資質・能力の具体的な内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな通信文を与えられた条件のもとで書けること。 ・文章の意図と書く内容をもとに通信文にふさわしい文章に整えることができるこ 	<p>【設問数】 1問</p> <p>【出題形式】 記述式 (100字程度)</p>	知識及び技能 表現力等 B書くこと <input type="radio"/> ○話し言葉と書き言葉、言葉遣い <input type="radio"/> ○構成の検討、考えの形成、記述 <input type="radio"/> ○表現の技法 <input type="radio"/> ○推敲、共有 思考力、判断力、 共有	<p>現代の国語</p> <p>[知識及び技能]</p> <p>○話し言葉と書き言葉、言葉遣い</p> <p>イ 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うこと。</p> <p>○表現の技法</p> <p>カ 比喩、例示、言い換え等の修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うこと。</p> <p>[思考力、判断力、表現力等] B書くこと</p> <p>○構成の検討、考えの形成、記述</p> <p>ウ 自分の考え方や事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や文体、語句などの表現の仕方を工夫すること。</p> <p>○推敲、共有</p> <p>エ 目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。</p>

<p>・「事実の報告」「意見」「意見の正しさの論証」「異なる意見をあげて反論する」の四つの部分による論説文を作成できること。</p>	<p>【設問数】 1問 【出題形式】記述式(50字程度) サンプル問題</p>	<p>現代の国語</p> <p>〔知識及び技能〕 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項</p> <p>○語彙 エ 実社会において理解したり表現したりするために必要な語彙の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通じて、語感を磨き語彙を豊かにすること。</p> <p>○文や文章 オ 文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解すること。</p> <p>○表現の技法 カ 比喩、例示、言い換え等の修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うこと。</p> <p>〔知識及び技能〕 (2)情報の扱い方に関する事項</p> <p>○情報と情報の関係 ア 主張と論拠など情報と情報の関係について理解すること。 イ 個別の情報と一般化された情報との関係について理解すること。</p> <p>○情報の整理 ウ 推論の仕方を理解し使うこと。 エ 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うこと。</p> <p>〔思考力、判断力、表現力等〕 B書くこと</p> <p>○構成の検討、考えの形成、記述 イ 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫すること。 ウ 自分の考え方や事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や文体、語句などの表現の仕方を工夫</p>
--	---	--

(様式4)

測定しようとする資質・能力の具体的な内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
			<p>すること。</p> <p>○推敲、共有</p> <p>エ 目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。</p>

サンプル問題について

事業者名：公益財団法人 日本漢字能力検定協会

測定ツール名：文章読解・作成能力検定 準2級

対象教科：国語

測定内容の区分：標準タイプ

サンプル問題番号(大問番号)：2

出題科目	現代の国語																								
出題のポイント	図表の正しい読み取りができるかどうか、図表を含む文章の意味内容を正しく読み取り、筆者の意図を理解できるかどうかを測定する。																								
主として 問う能力	<table border="1"> <thead> <tr> <th>小問番号</th> <th>知識・技能</th> <th>思考力・判断力・表現力等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>問1</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>問2</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>問3</td> <td></td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>					小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	問1		○	問2		○	問3		○								
小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等																							
問1		○																							
問2		○																							
問3		○																							
出題形式	<table border="1"> <thead> <tr> <th>小問番号</th> <th>選択式</th> <th>短答式</th> <th>記述式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>問1</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>問2</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>問3</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					小問番号	選択式	短答式	記述式	問1	○			問2	○			問3	○						
小問番号	選択式	短答式	記述式																						
問1	○																								
問2	○																								
問3	○																								
主として 問う技能 (英語のみ)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>小問番号</th> <th>聞く</th> <th>読む</th> <th>話す</th> <th>書く</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					小問番号	聞く	読む	話す	書く															
小問番号	聞く	読む	話す	書く																					
サンプル問題	別紙A参照																								
解答例	問1：イ 問2：エ 問3：イ																								
(参考)学習指導要領の関連項目	<p>現代の国語 [思考力、判断力、表現力等] C 読むこと ○構造と内容の把握 ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述をもとに的確に捉え、要旨や要点を把握すること。 ○精査・解釈、考えの形成、共有 イ 目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係づけながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めること。</p>																								

出題科目	現代の国語																								
出題の ポイント	与えられた条件を理解し、対立する二つの意見のうち、いずれかの立場に立って自分の意見を述べ、その根拠を論理的に説明できるかどうかを測定する。その際、説得力を増す方法として、異なる意見を想定して、それに反論することを求める。																								
主として 問う能力	<table border="1"> <tr> <td>小問番号</td> <td>知識・技能</td> <td>思考力・判断力・表現力等</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table>					小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等		○	○														
小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等																							
	○	○																							
出題形式	<table border="1"> <tr> <td>小問番号</td> <td>選択式</td> <td>短答式</td> <td>記述式</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table>					小問番号	選択式	短答式	記述式					○											
小問番号	選択式	短答式	記述式																						
			○																						
主として 問う技能 (英語のみ)	<table border="1"> <tr> <td>小問番号</td> <td>聞く</td> <td>読む</td> <td>話す</td> <td>書く</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					小問番号	聞く	読む	話す	書く															
小問番号	聞く	読む	話す	書く																					
サンプル 問題	別紙B 1 参照																								
解答例	<p>別紙B 2 参照 (正答条件)</p> <p>観点1 設問で指定した条件通りに述べられている</p> <p>観点2 経験などにもとづいて「事実」が具体的に述べられている</p> <p>観点3 賛成・反対のどちらかの立場に立って明確に「意見」が述べられている</p> <p>観点4 その立場に立つ一般化された「理由」が述べられている</p> <p>観点5 「事実」と「理由」が論理的に「意見」を支えている</p> <p>観点6 「異なる意見」に対する「反論」が述べられている</p> <p>観点7 誤字・脱字や文法に関する誤りがない</p>																								
(参考)学 習指導要 領の関連 項目	<p>現代の国語</p> <p>[知識及び技能] (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項</p> <p>○語彙</p> <p>エ 実社会において理解したり表現したりするために必要な語彙の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通じて、語感を磨き語彙を豊かにすること。</p> <p>○文や文章</p> <p>オ 文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解すること。</p> <p>○表現の技法</p> <p>カ 比喩、例示、言い換え等の修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うこと。</p> <p>[知識及び技能] (2)情報の扱い方に関する事項</p> <p>○情報と情報の関係</p> <p>ア 主張と論拠など情報と情報の関係について理解すること。</p> <p>イ 個別の情報と一般化された情報との関係について理解すること。</p>																								

	<p>○情報の整理</p> <p>ウ 推論の仕方を理解し使うこと。</p> <p>エ 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うこと。</p> <p>〔思考力、判断力、表現力等〕 B書くこと</p> <p>○構成の検討、考えの形成、記述</p> <p>イ 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫すること。</p> <p>ウ 自分の考え方や事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や文体、語句などの表現の仕方を工夫すること。</p> <p>○推敲、共有</p> <p>エ 目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。</p>
--	--

第2問 次の文章を読んで、後の問い（問1～問3）に答えなさい。

(30点)

X高校では、公民科や国語科を中心に、新聞を活用した授業を導入する予定である。その準備の一環として、新聞を読む習慣と生徒たちの意識との関係を把握し、学習への動機付けの方向性を探ることとした。図1・2は、全校生徒四五〇名を対象とした調査の結果である。【段落A】

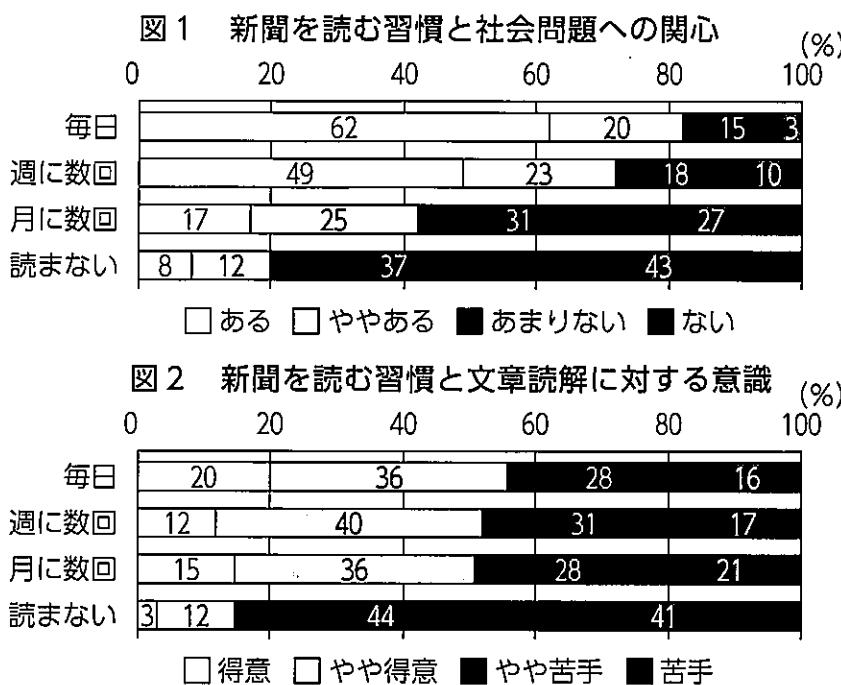


図1によれば、社会問題への関心が「ある」「ややある」という回答を合わせた割合は、新聞を「毎日読む」層では八割を超えるが、「週に数回」で約七割、「月に数回」で約四割と小さくなっている。そして、「読まない」層においては、①。【段落B】

一方、図2によれば、文章読解が「得意」「やや得意」を合わせた割合は、新聞を読む頻度が「月に数回」以上の各層で、五割以上であるが、「毎日」「週に数回」「月に数回」各層間の差は五ポイント以内にとどまっている。一方、新聞を「読まない」層では「やや苦手」「苦手」の合計が②。【段落C】

以上から言えるのは、「新聞を読む頻度が高い生徒ほど社会問題への関心が高い」「③」ということであり、「新聞を読むほど社会問題への関心が高くなる」「新聞を読めば文章読解への苦手意識が薄れる」とまでは言えない。図1の調査対象には、④という生徒が多数含まれていた可能性があるし、図2では、新聞を読む習慣と文章読解の苦手意識との間に因果関係が認められないからである。

【段落D】

問1 文中の空欄①・②に入る語句の組み合わせとして最も適切なものを、Ⓐ～Ⓔのうちから一つ選びなさい。

- | | | |
|---|-------------|---------|
| Ⓐ | ①一割に満たない | ②八割を超える |
| Ⓑ | ①二割にとどまっている | ②八割を超える |
| Ⓒ | ①一割に満たない | ②九割を超える |
| Ⓓ | ①二割にとどまっている | ②九割を超える |

問2 文中の空欄③に入る内容として最も適切なものを、Ⓐ～Ⓔのうちから一つ選びなさい。

- | | |
|---|--|
| Ⓐ | 新聞を読む頻度が低い生徒であるほど、社会問題への関心が低くなる |
| Ⓑ | 新聞を読む頻度が高い生徒であるほど、文章読解への苦手意識が少なくなる |
| Ⓒ | 新聞を読んでいる生徒も読まない生徒も、文章読解への苦手意識を持つ生徒が大多数である |
| Ⓓ | 多少なりとも新聞を読んでいる生徒の方が、読まない生徒より文章読解への苦手意識が少ない |

問3 文中の空欄④に入る内容として最も適切なものを、Ⓐ～Ⓔのうちから一つ選びなさい。

- | | |
|---|--------------------------------------|
| Ⓐ | 本校での新聞を活用した授業をきっかけに、新聞を読むことが習慣化した |
| Ⓑ | もともと社会問題への関心があり、そこから新聞を読む機会が増えていった |
| Ⓒ | 新聞記事で知った出来事について、ネットなどで詳しく調べるようになった |
| Ⓓ | 新聞を読む習慣がついて活字に慣れて、さまざまな本を読みこなすようになった |

第5問 SNSに自分が投稿した画像や文章は、自分が許可した人だけが閲覧できるように制限する」とができます。仕事用や学習用ではなく、自身の楽しみで利用するSNSについて、「自分が許可した人だけが閲覧できるようにする方がよい」と「だれもが閲覧できる方がよい」という二つの立場のどちらかに立って、論説文を書きなさい。次の条件を守り」と。

条件1 論説文は、次の順番で四つの段落に分けて書くこと。

第1段落 出来事・体験・知識を述べる。

「自分の楽しみで利用するSNSの閲覧制限」について、あなたの意見を支える出来事・体験・知識を述べる。

第2段落 意見を述べる。

自分の楽しみで利用するSNSについて、「自分が許可した人だけが閲覧できるようにする方がよい」と「だれもが閲覧できるようにする方がよい」のどちらか、意見を明確に述べる。

第3段落 意見の根拠を論理的に説明する。

第4段落 第2段落の意見とは異なる意見をとつていて、その意見が正しくないとを説明する。

条件2 1行25字のマス目に縦書きで、必ず18行以上、26行以内で書くこと。句読点も一字として数える。句読点が行頭にきたときは、前行末欄内または欄外にうつてよい。

注意 行数不足または行数超過の場合は採点の対象となりません。

(70点)

第5問 70点

作成例1 「許可した人だけが閲覧できる」立場

私は、画像投稿サイトを利用していいるが、始めたころは、だれでも閲覧できるよう設定していた。ある日、学校の友人とティマパークに遊びに行つたときの写真を投稿した。すると、あまり親しくない部活の先輩に「発表会も近いのに、自主練習もしないで余裕だね」と嫌味を言われてしまった。その後しばらくは、先輩の目を恐れて、なかなか投稿する勇気がわかない時期が続いた。また、通学時に最寄り駅までの路上で見つけたユニーカな看板の写真を投稿したときには、「見知らぬ人から『やつぱり近くに住んでいるんだね』とコメントされた。ずっと自分が監視されていたよう気味が悪くなり、それ以来、投稿を閲覧できる人を制限するようになつた。

その後、SNSの利用で不快な思いはしていない。個人の楽しみで利用するSNSでの投稿は、自分が許可した人だけが閲覧できるようにした方がよい。

SNSの投稿をだれでも閲覧できるよう設定すると、思いがけず、自分に不都合をもたらす情報を発信してしまうことがある。特に、個人情報に関する内容が拡散すると、身の危険にさらされる可能性もある。

だれに見られても大丈夫な内容かどうか、入念にチェックしてから投稿すれば、わざわざ閲覧を制限する必要はない、という意見もある。しかし、いちいちエツクしていると、投稿に時間がかかり、投稿数が減る。ぼぼシリアルタイムで他人の人と情報を共有し、その都度リアクションをもらえるという、SNSの楽しみが損なわれる。

(25字×25行)

作成例2 「だれもが閲覧できる」立場

私は、短文投稿サイトを、閲覧できる人を制限せずに使用している。主な話題はアイドルグループに関するものだ。新曲の感想やファンミーティングの体験談などの投稿に、国内はもちろん、海外のファンからもコメントをもらえることがある。大好きなグループのファンと、国境を超えて知り合い、メンバーや作品の魅力を語り合えることは、とても楽しい。特徴が共通している海外のグループの存在を教えてもらったり、日本ではそれほど人気のないメンバーが、ある国では一番人気であることを見つたり、新しい発見もある。

SNSを利用するときは、投稿を閲覧できる人を制限した方がよいと言う人もいる。しかし、私は、だれもが閲覧できるように設定するべきであると考える。

SNSは、全世界に向けて開かれている。だれにでも閲覧できるようにすれば、さまざまな地域のさまざまな人々と出会うことができる。そして、新しい知識や考え方などを得ることができる。